

平成 21 年 3 月期 中間期 (第 2 四半期連結累計期間) 連結決算サマリー

当社の「平成 21 年 3 月期 中間期決算」概要につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 連結決算概要

1) 連結経営成績

UTグループの「人材・装置・設計」の総合力発揮により、売上高および営業利益共に計画値を超過

	FY2009.3		前年比	FY2008.3	
	上期(4~9月)	構成比		上期(4~9月)	構成比
売上高	25,342	100.0%	93.4%	27,142	100.0%
アウトソーシング事業(日本エイム)	13,040	-	96.5%	13,509	-
製造装置事業(エイベックス)	6,408	-	187.9%	3,411	-
製造装置事業(マイクロ技研)	5,383	-	55.3%	9,735	-
設計開発事業(アルティスタ)	561	-	115.4%	486	-
売上総利益	4,757	18.8%	93.3%	5,099	18.8%
販売費及び一般管理費	2,577	10.2%	111.7%	2,308	8.5%
営業利益	2,180	8.6%	78.1%	2,791	10.3%
アウトソーシング事業(日本エイム)	1,329	-	106.7%	1,246	-
製造装置事業(エイベックス)	586	-	404.1%	145	-
製造装置事業(マイクロ技研)	368	-	24.4%	1,509	-
設計開発事業(アルティスタ)	60	-	157.9%	38	-
経常利益	1,466	5.8%	53.9%	2,721	10.0%
当期純利益	-4,747	-	-	982	3.6%

- ・ 環 境 : 当社グループの主要顧客となる半導体・FPD関連業界の事業環境は厳しい状況が続いた
- ・ 売 上 高 : 高い顧客シェア基盤、好調な LCD 製造装置販売に加え、移設案件が計画を上回るスピードで進捗したことにより、計画値を 4,342 百万円(20.7%)超過した
- ・ 営 業 利 益 : 戦略的なコストコントロール、移設サービスの拡充により、計画値を 180 百万円(9.0%)超過した
- ・ 経 常 利 益 : ファイナンシャルアレンジメントフィー等の費用および為替差損を計上したことにより、計画を 533 百万円(26.7%)下回った
- ・ 当期純利益 : 投資有価証券の評価損を計上したことが主因で、計画を 5,587 百万円下回りマイナスとなった

・ 日本エイムの概況:

連結売上高の半分以上を占めるアウトソーシング事業の業績は堅調に推移し、**減収増益**となった

売上高: **13,040 百万円(前年比 96.5%)** …顧客の事業環境が厳しい中、高い顧客シェア基盤により微減に留まった

営業利益: **1,329 百万円(前年比 106.7%)** …管理効率の向上等コストコントロールを進捗させたことにより増加した

・ エイベックスの概況:

装置販売事業から技術サービス事業へのビジネスモデルの転換により、**増収増益**となった

売上高: **6,408 百万円(前年比 187.9%)** …大型移設案件の検収が計画を上回るペースで上がり、大幅増加した

営業利益: **586 百万円(前年比 404.1%)** …装置エンジニアの採用関連でコストが一時的に上がったものの、大幅増加した

2) 財政の概況(平成 20 年 9 月 30 日時点)

- ・ 純資産: **9,505 百万円**
- ・ 株主資本: **7,131 百万円**(株主資本比率: 17.3%)

2. 特記事項

当社保有のラディアホールディングス株式の売却を全て住友信託銀行へ委託し、処分信託に設定いたしました(平成 20 年 11 月 6 日)。当社は企業価値の再構築に注力してまいります。

以上

(注)当資料に記載する業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき、独自の判断により作成しておりますが、実際の業績は今後さまざまな要因により予想数値と異なる場合があります、実現を保証するものではありません。

お問い合わせ先: IR広報担当 秋田、櫻井(03 - 5447 - 1716)